

富士山

○ 概況（平成 16 年 1 月）

火山活動は、落ち着いた状態が続きました。

高周波地震、低周波地震の回数はともに少ない状態でした。

○ 地震活動の状況

山頂に設置した地震計の記録によると、高周波地震、低周波地震の回数はともに少ない状態です（表 1）。2000 年後半から 2001 年前半にかけてやや活発化した低周波地震活動も、その後は落ち着いた状態が続いています（図 1～4）。火山性微動は観測されませんでした。

表 1 地震日別回数表(富士山)

富士山(A点)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	
低周波地震	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0		3	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0		2	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	4
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5

短期・日別 地震活動推移（最近 2 年間の高周波地震・低周波地震の日別回数）

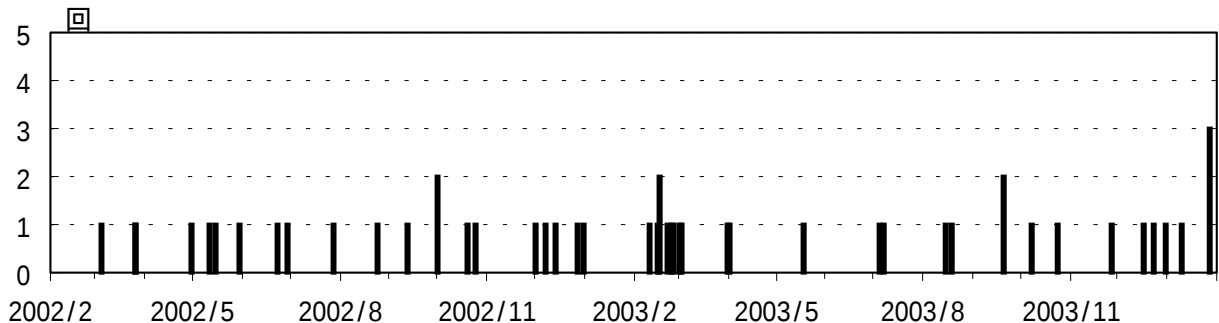


図1 高周波地震日別回数(2002年2月1日～2004年1月31日)

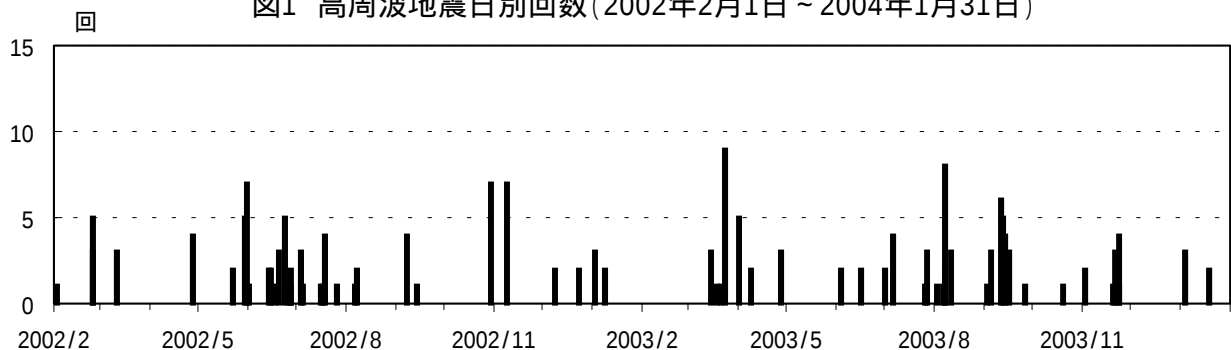
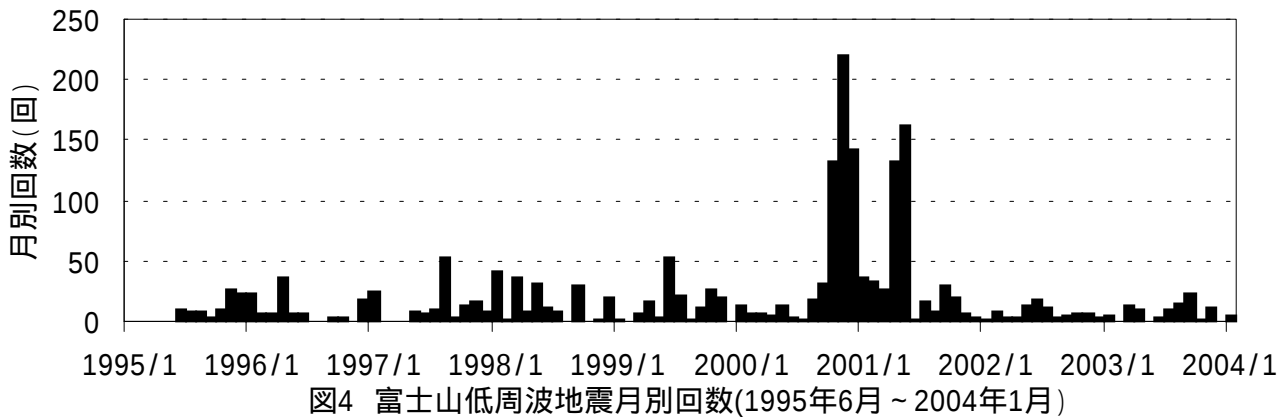
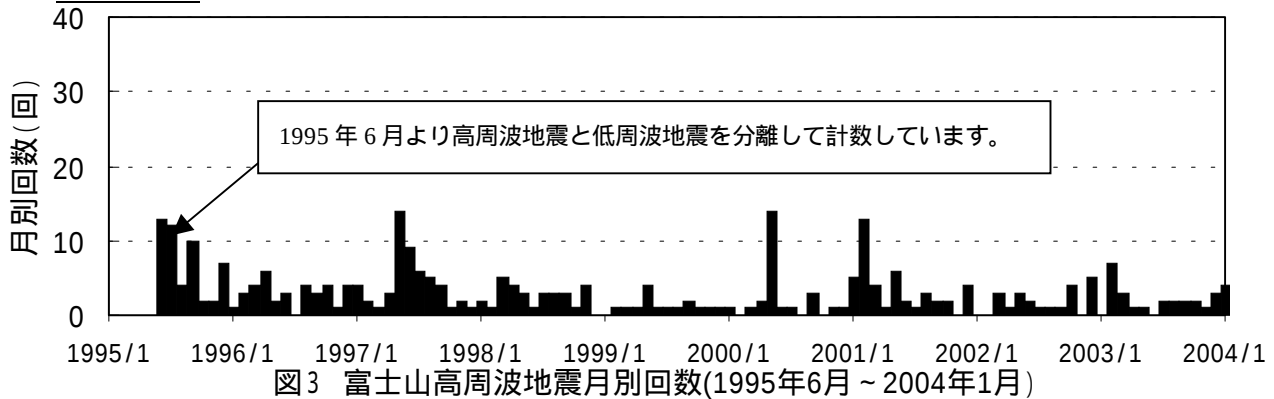


図2 低周波地震日別回数(2002年2月1日～2004年1月31日)

長期・月別 地震活動推移 (1995年6月以降の高周波地震・低周波地震の月別回数)



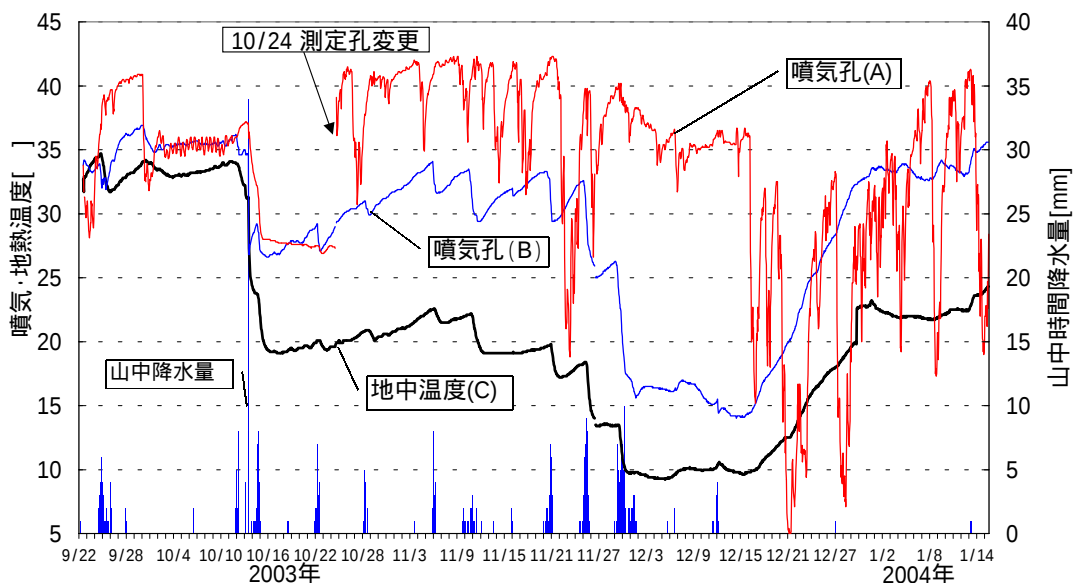
○山腹の地面の陥没と噴気

気象庁では、昨年9月に富士山北東斜面で確認された地面の陥没と極弱い噴気について、昨年に引き続き、今年1月15日に職員を現地に派遣し、その後の状況を調査しました。

陥没状況は、前回(2003年11月26日実施)と大きな変化はありませんでした。(図6)

また、2003年9月22日から行なっている噴気温の連続観測では、降水によると思われる変化は見られるもののそれ以外には大きな変化はありませんでした。(図5)

現時点で、地震活動等他の観測データに異常な変化は観測されておらず、これらの地面の陥没や噴気が噴火活動と直接関連するものとは考えていません。



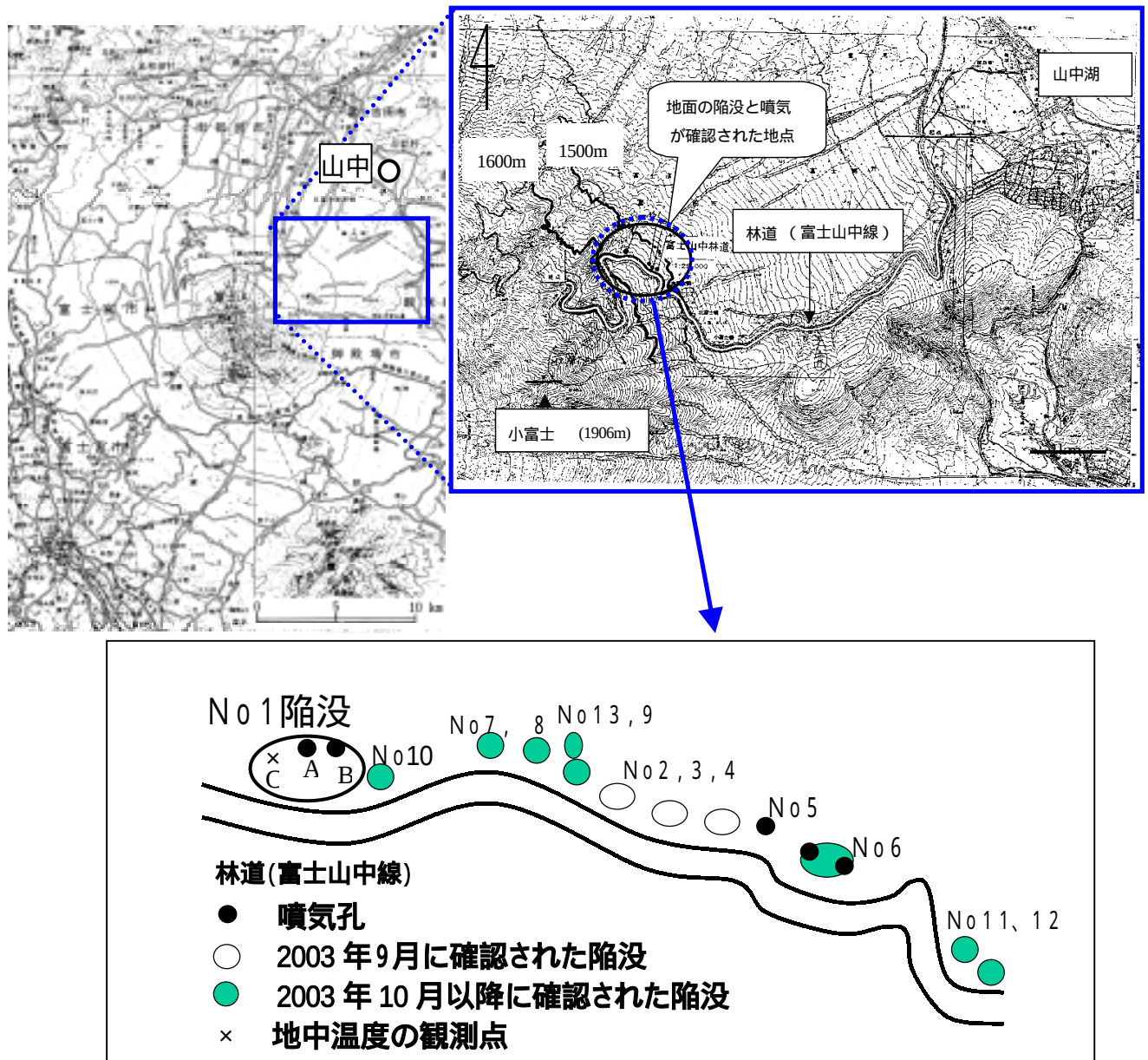


図 6 地面の陥没と噴気の観測された位置

左上 国土地理院 1/200,000 地形図「甲府」及び「静岡」より

右上 国土地理院 1/25,000 地形図「須走」に山梨県消防防災課が加筆した資料より

下 地面の陥没と噴気孔の位置関係